



**編集・発行**  
 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
 大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター  
 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1  
 TEL:072-957-2121  
 FAX:072-958-3291  
 HP:http://www.ra.opho.jp  
 E-mail:kokyucen@ra.opho.jp

## 秋になって

院長 楠 洋子

朝晩肌寒くなり、秋本番の感覚が戻ってまいりました。夕暮れが早く、外が暗くなると急かされる気分になるこのごろです。

「葉っぱのフレディーのいのちの旅」（レオ・バスカーリア作）の絵本に描かれた季節です。人それぞれの生業（なりわい）、それぞれの役目、後へつなぐ仕業（しわざ）などをいかにも短く簡単な文章で表現していることか……。 “子供へのおはなし”以外の深い意味を大人も感じる絵本とっております。

この秋、10月より、小児の2次救急を受け入れることになりました（産婦人科の2次救急は従来より実施しております）。当センターの特色として、主として呼吸器疾患やアレルギー疾患が中心になりますが、消化器や整形外科的な救急以外の疾患も広く受け入れていく予定です。当方で扱えない疾患の場合には阪南 中央病院や近大の小児科などとの協力体制が整っております。小児科の休日診療は羽曳野市立保健センターで実施されていますが、担当日には当センターから医師、看護師が出向いております。ご利用いただければと存じます。



また当センターは従前から3次救急を標榜しており、呼吸器集中治療室（IRCU）の設備を有し、府の医師会にあるデータセンターによるネットワークを利用して呼吸管理などに関する救急を受け入れる体制になっております。

これらのように、当センターの役割が地域の皆様に知っていただく機会が少ないように思います。今後は病院の“医療の中身”を理解していただける機会を増やしていこうと思っております。

## <<薬局の紹介シリーズ (12) >> 相互作用のチェック 薬剤師 長谷川 聡司

「薬はお酒と一緒にのまないで下さい。」と薬局などでいわれたことはないでしょうか？これは薬の飲み合わせ、相互作用のチェックという薬剤師の仕事のひとつで、今回はこのことについてふれてみたいと思います。

薬の多くは、肝臓により分解されます。アルコールも肝臓で分解さ





れる為、お酒と薬が同時にからだに入ると、アルコールが肝臓を独り占めし、薬が分解されずに強く効きすぎる事があります。特に、ほとんどの睡眠薬は肝臓で分解されるため、お酒と同時に服用すると、睡眠薬の効果が強まり非常に危険ですのでしてはいけません。

またお酒のほかにも薬や食べ物の中には、体の中での薬を分解する働きを弱めたり強めたりするものがあります。例えば、血をさらさらにするワーファリンという薬は納豆と一緒に食べるとワーファリンの効果が弱まります。またお茶やコーヒーに含まれるカフェインは気管支を広げるテオフィリンという薬の効果を強めます。

このように、薬と一緒に摂取すると、本来の薬の効果がでなかったり、薬が体からなくならず効果が強まり副作用を起こしたりするものがあります。

薬局では薬の相互作用をチェックし、患者さんが安心して薬を服用できるよう努めています。薬の飲み合わせや副作用について不安な点があれば気軽に薬剤師にお声を掛けてください。

### 11月・12月の教室案内

\* カンガ  
ルー教室 ● 11月12日(水)・19日(水) ● 12月10日(水)・17日(水) 午後1時半～

\* 喘息教室・理学療法 ● 11月20日(木) ● 12月18日(木) 午後2時～  
(小児科)

### 非結核性抗酸菌症とは

結核内科部長 永井 崇之

皆さんにはあまり耳慣れない病名かも知れません。今回は近年増加傾向にある非結核性抗酸菌症についてお知らせいたします。

結核菌の親戚のような菌（抗酸菌とよばれるグループの中から結核菌とライ菌を除いた菌）は自然環境（水や土）や動物の体内、水道水などに広く生息しており、現在100菌種以上が発見されています。これらの菌を総称して非結核性抗酸菌、非結核性抗酸菌が体に入り込むことで起こる病気を非結核性抗酸菌症と呼んでいます。日本の場合7割ぐらいはMAC(アビウム菌)と呼ばれる菌で占められており、ほとんどは肺で病気を引き起こします。病気の症状は咳や痰、微熱といった呼吸器症状がほとんどで、あまり激しい症状はありません。自覚症状はあまりなく、検診で発見される方も多い病気です。

	結核	非結核性抗酸菌症
--	----	----------

感染	人⇔人の伝染病	人⇔人はまずない
進行	比較的早い	ゆっくりしている
治療効果	良好	効果は限られている



病気の名称からして誤解を受けることも多いのですが、結核とは全く異なる病気です。「結核ではないですよ」と説明すると多くの患者さんは喜ばれるのですが、実は表のように薬の効果に限られており治癒率の悪い病気です。ただし経過の長い病気で、自然軽快することもあるため、軽症の時には経過観察のみ行うこ

とも少なくありません。この病気を診断された、あるいは疑われた場合は一度専門医への受診をお勧め致します。お気軽にご相談下さい。

■□敷地内タバコ持ち込みゼロ！□■

当センターの敷地内は、禁煙となっております。  
平成20年12月からは、  
敷地内へのタバコの持ち込みも禁止となります。  
ご協力を、よろしくお願いいたします。

